

令和5年12月一般質問(5年12月1日)

1. 街路樹の適正な管理について

- (1) 西尾市が管理している街路樹(高木)の種類や本数はどのようなですか。また、管理内容と経費はどのようなですか。
- (2) 街路樹の適正な管理のための点検やチェック体制はどのようなですか。
- (3) 現状の街路樹の課題として、樹形の損なわれた街路樹、根上がりや幹の肥大化した街路樹、景観を損ねるおそれのある街路樹、危険度の高い街路樹などの把握はしていますか。また、それらの対策はどのようなですか。
- (4) 交通安全の役割と言われている街路樹が、脇道から本線に進む際の見通しが悪くて危険となっている場所があります。剪定や伐採などの対策はどのようなですか。
- (5) 市民から見通しが悪いという苦情はありますか。また、市民から剪定や伐採などの要望があった場合の対策基準及び手順はどのようなですか。

2. eスポーツによるまちの活性化について

- (1) eスポーツの特性を生かして、多世代交流、多文化交流の促進とともに高齢者の脳トレや健康増進・介護予防、障害者スポーツの推進を図り、誰もが暮らしやすいまちづくりの推進を目指すとしていますが、取組内容及び成果はどのようなですか。
- (2) eスポーツを活用したスポーツツーリズムの創出と観光客誘客への取組として、交流イベントや大規模なeスポーツの大会を開催することによって、滞在者等の来訪を拡大させ、新たな滞在型メニューを創出することができ、市内周遊の促進、宿泊観光客の増加等による観光消費の拡大が期待できるとしていますが、取組内容及び成果はどのようなですか。
- (3) eスポーツによるまちづくりの今後の計画と推進するための課題を、どのように捉えていますか。

3. 総合防災訓練を振り返って

- (1) 総合防災訓練のあるべき姿はどのように考えていますか。また、実情は緊張感のない訓練と感じましたが、どのように評価していますか。
- (2) 訓練の参加者や見学者が少ないように感じましたが、市民への呼びかけや啓発活動はどのようにしましたか。
- (3) 訓練のあるべき姿を考慮した上で、来年の開催に向けての課題や多くの市民に参加や見学をしてもらうための対策をどのように考えていますか。

(渡辺信行) 新政令和の渡辺信行です。ただいまより一般質問を行います。

議題1 街路樹の適正な管理について。

街路樹は、何のために植えられているのか。景観や車道と歩道の区別はよく言われますが、ほかにも多くの役割があります。そこから確認してみたいと思います。

景観として町並みに統一感を与え、沿道景観に彩り、季節感、潤いをもたらします。環境として緑陰を形成し、夏の日差しを和らげ、周囲の気温上昇を抑えることでヒートアイランド現象の緩和、CO2を吸収することで地球温暖化防止に役立ちます。交通安全として車と歩行者の分

離、並木効果による視線誘導、ヘッドライトの防眩効果等の交通安全性の向上に役立ちます。防災として火災時の熱吸収、低減による延焼防止効果、地震時の家屋倒壊防止等の防災機能があります。そして、健康づくり、レクリエーションとして散歩やジョギングを促進し、健康増進や精神的な充実感を与えてくれます。ほかにもありますが、このように様々な役割があって植樹されています。

そして、人が通行する道路という限られた環境の中に植えられるため、樹形が美しく均整のとれた樹木、風雪等の自然災害に強く、まちの厳しい環境に耐えることや病気になりにくく、害虫の被害も少ないものなど、特性のある樹木が選ばれています。これらの役割を果たすためには、剪定等の手間暇をかけなければなりません、現状は経費の問題などにより十分とは言えない状況にあります。そんな中、市民からの声は、交通安全のために植えられた木が交通の支障になっていることであります。脇道から本線に出るのに見にくいという意見を市民から伺います。基本的に、脇道のある本線での街路樹は高木を控えるべきと思います。電線等の支障にもなりますし、剪定する経費も多額であります。また、過密に植えられているところは、月日がたつと樹木同士が成長を妨げたり、樹木の枯れや病気の発見が遅れてしまい、台風などの災害時に倒伏してしまうといった事例もあります。さらに落葉樹は冬になると葉が落ち、落ち葉がスリップや転倒の原因、排水溝を詰まらせるといった問題も引き起こしている事例もあります。そのため落ち葉の清掃や路面の冠水など、地域住民に負担がかかっていることもあります。

今年、街路樹と言えばビッグモーターの事件が思い浮かびます。除草剤の散布や街路樹が伐採されました。東京都知事の言葉を借りますと言語道断であります、一方で広島市は、県道の街路樹の伐採を許可したとされていまして。許可した理由として、街路樹で視界が悪いと事故が起こる懸念があったからと説明しています。

それでは、街路樹の現状から質問していきます。

質問要旨(1)西尾市が管理している街路樹(高木)の種類や本数はどのようなのですか。また、管理内容と経費はどのようなのですか。

(建設部長) 西尾市が管理しています高木街路樹の種類及び本数ですが、令和5年3月31日現在で、アメリカフウ、アラカシ、イチョウ等をはじめとする43種類、2,980本であります。管理内容でございますが、多くの高木は年間委託により年1回の剪定を基本に、支障枝の成長による修景悪化を防止するための常時パトロール、樹種や植栽場所に適した樹形の整形を目的とする剪定、害虫の卵または弱齢幼虫群が発生した枝葉ややご等の切り取りなどを実施しており、一部の高木については地元町内会からの要望等による対応としております。

管理に対する経費でございますが、令和3年度は2,199万8,350円、令和4年度は2,274万6,900円、令和5年度は約2,370万円を予定しております。

(渡辺信行) 質問要旨(2)街路樹の適正な管理のための点検やチェック体制はどのようなのですか。

(建設部長) 具体的な点検やチェック体制は定めておりませんが、年間委託の請負業者は、先ほども申し上げましたが常時パトロールを行い、支障枝の成長や雑草の繁茂による修景悪化の防止のため、適宜措置を実施することとしております。また、市職員による日常のパトロー

ルや道路利用者からの道路の異常等に関する情報の活用により、落枝、枯損樹木等の確認を行うなど、道路交通への支障、道路利用者等への危険の未然防止に努めております。

（渡辺信行） 質問要旨(3)現状の街路樹の課題として、樹形の損なわれた街路樹、根上がりや幹の肥大化した街路樹、景観を損ねるおそれのある街路樹、危険度の高い街路樹などの把握はしていますか。また、それらの対策はどのようなのですか。

（建設部長） 幹の高さや幹回りの長さについては、台帳による管理をしておりますが、樹形の損なわれた街路樹、根上がりや幹の肥大化した街路樹、景観を損ねるおそれのある街路樹、危険度の高い街路樹は台帳等による把握はしておりません。しかしながら、年間委託において危険度の高い街路樹を発見した際は直ちに措置を行い、市職員へ報告することになっており、状況に応じた対策を講じております。

また、今後は市職員による日常のパトロールの中でも、樹形の損なわれた街路樹等について、近視目視を行うなど状況の把握に努め、対策を検討してまいります。

（渡辺信行） 質問要旨(4)交通安全の役割と言われている街路樹が、脇道から本線に進む際の見通しが悪くて危険となっている場所があります。剪定や伐採などの対策はどのようなのですか。

（建設部長） 街路樹は美しい景観形成、道路環境の保全及び歩道と車道を視覚的・構造的に分離する機能を有しており、交通安全にも寄与しております。しかしながら、交差点などで街路樹が原因による視界不良のため、通行に支障を来す場合も想定されます。対策といたしましては、街路樹の剪定は車道の舗装面から約 4.5 メートル、歩道は 2.5 メートルより上になるよう建築限界を確保し、車両や歩行者の安全性、円滑性に支障を来すことがないように管理をしております。また、市職員によるパトロールや道路利用者からの通報により、対策が必要と判断した箇所についても速やかに剪定や伐採などの対応をするよう努めております。

（渡辺信行） 質問要旨(5)市民から見通しが悪いという苦情はありますか。また、市民から剪定や伐採などの要望があった場合の対策基準及び手順はどのようなのですか。

（建設部長） 街路樹が原因で見通しが悪いという苦情等は、年間で数件ほどいただいております。市民から、剪定や伐採などの要望があった場合の対策基準や手順は特に設けておりませんが、現場の見通しや危険性等を確認の上、通行に支障がないよう剪定、伐採等の対策を行っております。

今後につきましては、県や他市の状況等も参考にし、業者委託や直営による管理も含めまして、より効率的な方法について考えてまいります。

（渡辺信行） 交通安全のための街路樹が、交通事故につながっては大変なことであります。人の生命に関わる問題でありますので、植樹の際もよく考えていただきたいし、植えた後も剪定作業などの管理をきちんとしていただきたいと思います。冒頭に述べました街路樹の役割を設置

者及び市民が十分理解し、適正な管理のもとに街路樹が道路の沿線環境を改善することで、良好な生活環境を創造することなど目指して、整備されることを願って次の議題に移ります。

議題2 eスポーツによるまちの活性化について。

令和5年度の施政方針で取組が示されましたし、10月の広報にしおの市長コラムに掲載されました。さらに10月18日の中日新聞に「伸びゆく西尾市 市制70周年の市長あいさつ」に、eスポーツを活用し、地域活性化を図るとありました。今年度も残すところ4カ月であります。eスポーツ関連事業は年間計画により推進されていることと思いますので、事業の進捗状況や今後の計画について質問します。

eスポーツは、ご承知のとおりエレクトロニック・スポーツの略で、スポーツ競技として、主にコンピュータゲームで対戦する際の名称であります。今年、中国広州アジア大会で初めて正式種目に採用されました。世界のゲーム人口は30億人とも言われており、特に最近では中国で熱を帯びています。競技人口は、eスポーツ先進国であるアメリカが約1億3,000万人、中国・韓国が約3,000人、日本は700人とかなり少ない状況にあります。そもそも日本で、eスポーツという単語が使われ始めたのは2000年代になってからであり、初のプロゲーマーが誕生したのが2010年であります。注目すべきは観戦者数であります。世界中で約4億5,000万人というデータがありますし、毎年15%ほど増えると予想されていますので、人気が上がると同時にプロを目指す人も増え、競技人口も増えていくものと思われます。3年後には愛知名古屋大会の実施が決定されており、愛知県はイベントに競技の体験ブースを出展することなど、2028年のロサンゼルス五輪での採用に向けて期待感が高まっているところであります。しかし、喜ばしい点ばかりではなく、子供のゲーム中毒に対する警戒感など問題点が生じています。

質問要旨(1)eスポーツの特性を生かして、多世代交流、多文化交流の促進とともに高齢者の脳トレや健康増進・介護予防、障害者スポーツの推進を図り、誰もが暮らしやすいまちづくりの推進を目指すとしていますが、取組内容及び成果はどのようなのですか。

(交流共創部長) 今年度は、年間20回以上の体験会や交流会などのワークショップの開催を目指し、eスポーツ事業を推進しています。具体的には、西尾市シルバー人材センターと連携し、所属する高齢者の脳トレやフレイル予防、交流活性を目的にした体を動かすeスポーツ体験会を開催し、約40人のご参加をいただきました。外国にルーツのある学生が多数在籍している一色高校では、定時制、全日制の壁を越えて多文化交流を目的としたeスポーツの交流会を開催し、約30人の参加をいただきました。多国籍の子供たちの交流と、活躍の場の提供を目指す多文化ルームKIBOUでは、eスポーツ体験会を開催し、不登校等の若者を支援している子ども・若者総合相談センター「コンパス」では、社会参加促進を目指すeスポーツ交流会を開催し、こちらについても30人程度のご参加をいただいております。

また、直近では、11月22日にデジタル技術を活用した、ARテクノスポーツの祭典「デジタルパーク」をコンベンションホールで開催し、約1,200名の方にご来場いただき、待ち時間が1時間以上の行列ができるほどの大盛況でした。その他の成果といたしましては、昨年度の事例ではございますが、子ども・若者総合相談センター「コンパス」での交流会に参加された方が、その後開催した西尾市eスポーツ最強決定戦に出場し、優秀な成績を修めたとともに、今年度の

交流会では積極的にスタッフの手伝いをしてくれており、支援の一部になっていると考えております。

（渡辺信行） 質問要旨(2)eスポーツを活用したスポーツツーリズムの創出と観光客誘客への取組として、交流イベントや大規模なeスポーツの大会を開催することによって、滞在者等の来訪を拡大させ、新たな滞在型メニューを創出することができ、市内周遊の促進、宿泊観光客の増加等による観光消費の拡大が期待できるとしてありますが、取組内容及び成果はどのようなのですか。

（交流共創部長） 観光客誘客への取組内容といたしましては、市外からeスポーツファンを誘導するため、今年度も昨年度に引き続き西尾コンベンションホールにおきまして、eスポーツイベントを 12 月 16 日に開催してまいります。昨年度は、市民向けの交流イベント「西尾市eスポーツ最強決定戦」を開催し、プレーヤーだけではなく、オンラインでの観戦者を含め 1,000 人以上の方がeスポーツイベントに参加し、eスポーツに対する関心の高さや市場ニーズを図ることができたと実感しております。今年度も、実況解説やエキシビションにはプロのeスポーツ選手を招き、未開拓であった層への遡及による関係人口の拡大を図り、観光消費の拡大へつなげるとともに、eスポーツに取り組む先端都市として西尾市をPRしてまいります。

また、西尾市の特産品であるウナギや抹茶は、滋養強壮や健康によい食材としても知られており、eスポーツをはじめとしたスポーツアスリートに対し、試合前に訪れる場所として西尾市をPRできないか検討しているところでございます。

（渡辺信行） 質問要旨(3)eスポーツによるまちづくりの今後の計画と推進するための課題を、どのように捉えていますか。

（交流共創部長） 来年度には、国内外からの誘客を目指したeスポーツ大会の開催を検討しています。渡辺議員のおっしゃるとおり、国内外におけるeスポーツ市場は年々拡大しており、競技人口やファンが増えていく一方で、eスポーツは、採用するゲームタイトルのはやり廃りによる影響を受けやすい競技でもあります。eスポーツを単純なコンピュータゲームという限定的なとらえ方ではなく、デジタルスポーツやデジタルアートといった暮らしを豊かにする可能性を秘めた互換性の高い事業として、今後の活用の検討と実証を進めていくことが重要であると考えております。

（渡辺信行） 日本は、世界的に知名度の高いゲームメーカーや、eスポーツで採用されているゲームタイトルを多く有していますが、他国に比べてeスポーツの普及が遅れています。

今後、さらに仮想現実や拡張現実などの先端テクノロジーを取り入れた新しいエンターテインメントになることが予想されますが、そのためには世界市場からの遅れ、認知度に対する課題や経済効果などの課題をクリアしていく必要があります。eスポーツ市場が成熟し、多様化していく過程で、ますます注目を集めていくものと考えますので、西尾市のまちづくりに生かされることを期待しまして、次の質問に移ります。

議題3 総合防災訓練を振り返って。

総合防災訓練は、災害が発生した場合において、国の行政機関、地方公共団体、民間企業等の防災関係機関が一体となって、市民と連携しつつ対応することが求められています。防災訓練を通じて、より多くの市民が防災や減災に関する意識を高めるなど、基本的な考えがありますし、また防災関係機関の平時からの組織体制の機能確認、評価等を実施し、実効性について検証することや、災害発生時における各防災関係機関の適切な役割分担と、相互に連携・協力した実効性ある対応方策を確認することなど様々な目的があります。西尾市の総合訓練は、11月5日に鶴城中学校で開催されました。参加機関は、国や県、民間や各種団体など35団体でありました。訓練内容は参加機関と協議の上、決められたことでありますので意見や質問は控えますが、訓練に対する姿勢について質問します。

地震発生の午前9時から閉会式まで見ていて感じたのは、活気のない、緊張感のない、参加者の少ない訓練でありました。このように感じたのは私だけでなく、会場に見えた市民の声でもあります。マンネリ化しないような訓練にしていきたいと思います。

質問要旨(1)総合防災訓練のあるべき姿はどのように考えていますか。また、実情は緊張感のない訓練と感じましたが、どのように評価していますか。

(危機管理局長) 総合防災訓練では、本市をはじめとする行政機関や防災関係機関との官民連携に関する体制の確認や、市民参加による防災意識の高揚を図ることで、南海トラフ地震などの大規模災害に備えるための検証を行うことと考えております。訓練については毎年ほぼ同じ内容であり、繰り返し行う必要性も感じる反面、マンネリと指摘を受けていることは承知しております。また、参加者や見学者が例年に比べ少なかったのは事実であり、防災意識等に課題があるのかも含めて研究する必要があると感じております。

今後は、防災関係機関を含めた市民全体の危機管理意識が重要でありますので、有意義な訓練となるようさらなる検討・協議をしていくべきだと考えております。

(渡辺信行) 地域により温度差はあると思いますが、防災意識が高められる訓練にしていきたいと思います。今年の訓練は見学する人が非常に少なく、テントの椅子席は空席だらけ、ブースのテントも訪れている人が少なく、企業等のPR効果は低く、日赤奉仕団の炊き出しは、豚汁とおにぎりを頑張って作ったものの余りぎみ、とにかく活気が感じられない訓練でありました。

質問要旨(2)訓練の参加者や見学者が少ないように感じましたが、市民への呼びかけや啓発活動はどのようにしましたか。

(危機管理局長) 今年度の参加者は、各機関の訓練が約400名、鶴城体育館で行いました避難所運営訓練に約150名、見学者は約50名で、市民への呼びかけや啓発活動は市ホームページ、広報への掲載や町内会での回覧板、報道機関への発表などで防災訓練の周知を行いました。

(渡辺信行) 再質問します。広報の掲載や市のホームページはお知らせであって、見ている人

は限られますし、呼びかけには至りません。人から人に声をかけないと集まらないのが現実でもあります。

再質問ですが、鶴城中学校区の住民への呼びかけはどのようなでしたか。また、職員の手伝い以外の呼びかけはどのようなでしたか。

（危機管理局長） 鶴城小学校区の住民への呼びかけは、自主防災会を通じ総合防災訓練への参加をお願いいたしました。職員につきましては、特に見学などの要請をするようなことは行っておりませんでした。

（渡辺信行） 再質問します。鶴城中学校の生徒の協力はどのようなでしたか。それと、仕事以外の職員はどれほどの人が見に来ていましたか。

（危機管理局長） 鶴城中学校の生徒に対しては、訓練への参加依頼は行っておりませんが、チラシを配布し、見学をしていただくようお願いをいたしました。また、職員につきましては数名で少なかったと感じましたが、市内全体で自主防災会を中心に 17 万人市民まると防災訓練が行われておりますので、それぞれの地域で参加があったものと考えております。

（渡辺信行） 市民まると防災訓練ですから、職員は鶴城中学校か地域で率先して参加して当然でありますので、そうであったと思っておきます。

なお、生徒の顔が見られなかったのは残念に思いました。学校で防災訓練や防災教育をしていることとは別の意義があると考えます。休日でありますので強制することはできませんが、協力依頼をして生徒が訓練に参加すること、見学することによって得た防災知識が、将来に役立つと考えるからであります。いつ来るか分からない災害です。将来を担う生徒こそ、被災時には役に立つ存在であります。生徒は自宅に戻れば地域の一員となり、共助としての役割を果たしてくれるのは今の生徒たちであり、頼りになる存在であると思います。

質問要旨(3)訓練のあるべき姿を考慮した上で、来年の開催に向けての課題や多くの市民に参加や見学をしてもらうための対策をどのように考えていますか。

（危機管理局長） 防災訓練は、議員のおっしゃるとおり有事の際に実効性のあるものにするため、緊張感を持って実施することは大切なことと考えております。今年度の訓練での反省点、防災関係機関や自主防災会などの訓練参加者からの意見などを参考に、訓練項目、訓練体系を検証し、実効性のある総合防災訓練を実施してまいりたいと考えております。

また、実施する校区、自主防災会、連絡協議会などとの連携を強化し、より多くの市民に参加いただくよう呼びかけてまいります。

（渡辺信行） 再質問します。他市の訓練の視察はしたことはありますか。しているのなら、西尾市と比較して感じたことや参考にすべきことはどのようなですか。

（危機管理局長） 他市の訓練の視察は行っておりませんが、近隣市に訓練の実施状況を確認

したところ、地域住民による避難訓練や避難所開設訓練を実施している自治体や防災フェスタとして訓練、体験ブースやスタンプラリーなどを開催している自治体がございました。他市の状況を踏まえ、訓練に参加いただける提携先と相談し、内容などを検討してまいります。

（渡辺信行）最後に、近藤副市長にお聞きします。市の責任者としてみえましたが、どのように感じ、どのように評価されましたか。

（副市長）今年度の総合防災訓練に対しまして、大変厳しいご指摘をいただきました。私自身も、渡辺議員と同様な問題意識を持ったところでありまして、訓練後すぐに所属課長に、今回の訓練の問題点を整理して、その対応策を課内でしっかりと議論してまとめるように指示したところがございます。来年度の訓練に関しましては、初期の目的を達成するため自主防災会との連携強化を図り、防災意識が高まるような訓練内容を検討するとともに、民間を含めた防災関係機関との連携につきましても、原点に立ち返って訓練の狙いの共有から、担当者間との連絡調整を密にして強固な関係が築けるように努め、いざというときに役立つ訓練にしていきたいと思います。特に地域性に合った内容で実働訓練となるようにすること、また協定企業などとの協力体制に基づいた実働訓練を、市民と防災関係機関とも連携して実施することを重点にして検討してまいります。

（渡辺信行）責任者として問題意識を持たれたことは、今後に生かされると期待いたします。問題とは、目標や目的と現状とのギャップと定義されています。近藤副市長が、所属課長に問題点を整理するなどの指示をされたという答弁を聞いて、トヨタ生産方式を表したトヨタ自動車元副社長の大野氏が思い浮かびました。大野氏は、現場に足を運んではリーダーたちに「今、何が問題か」と尋ねていました。「問題はありません」と答えるリーダーがいたら、チョークで床に大きな丸を描いたというのは有名な話です。「そこに立って現場を半日見ていろ」と指導しました。リーダーたちが、そこに立って現場を観察していると、無駄などいろいろなものが見えてきて改善につながったという話であります。

防災訓練は、有事の際に役立つものとしなければなりません。長年、大きな被害を受けていない西尾市でありますので、市民の危機管理意識など課題もありますが、被害に遭っていない今だから被災の際に動ける訓練にしなければなりません。東日本大震災などの既往災害を踏まえた災害対応力の向上を図るとともに、自助・共助・公助が有機的につながる訓練など、地域の実情に即した訓練を実施して、地域の防災力の向上につながることを願って一般質問を終わります。